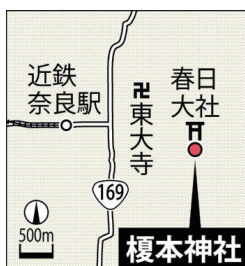




榎本神社 (奈良市)



春日大社の摂社である
榎本神社は、春日大社本

社回廊内の西南角の社殿に鎮座します。平安時代の「延喜式神名帳」に春日神社と記載された式内社です。その後、神木の榎の木が背後にあったことから「榎本」と名付けられたと伝わります。春日大社をお参りする

(住所) 奈良市春日野町160
(祭神) 猿田彦命
(例祭) 11月1日
(交通) JR・近鉄奈良駅からバス

「春日大社本殿」下車 徒歩約5分
(駐車場) 有料(春日大社駐車場)
(電話) 0742・22・7788

際は、まず榎本神社を参拝した後、若宮・本社に向かうのが参拝順序とされ、これにまつわる二つの説話があります。もう一つは、榎本の神様は安部山の武甕槌命に境内の土地の交換を申し出て実現した一方、安部山には参詣人が少なく、平安時代に再び春日に戻ったということです。

常陸の鹿島から大和に参る途中、安部山(現桜井市)にいた武甕槌命は御蓋山の主であった榎本の神様に「地下三尺(約1尺)まで借りたい」とが伝えられています。現在も耳の遠い榎本の神様に「榎本さん、お参りに来ましたよ」と告げ、鳥居の柱を握り拳や扇の御紋が刻まれた瓦が使われています。現在も縁結びや長寿を願う神様として信仰されています。(奈良まほろばソムリエの会会員 池田崇)

鳥居叩いて参拝告げる